

文化遺産Ⅱ

科目ナンバリング CAS-102

【Ⅲ】 選択 2単位

鈴木 稔

1. 授業の概要(ねらい)

文化遺産という言葉からすぐ連想されるのはヨーロッパの有名な教会、それとも富士山でしょうか。しかし、文化遺産には無形文化遺産というものもあります。近年、和食やナマハゲがユネスコ無形文化遺産に記載され話題になりました。人々の暮らしの中から生まれ、変化しながらも現在にまで受け継がれているものが無形文化遺産だとすると、どんなところにも文化遺産は存在すると言えるでしょう、たとえその地域の人たちにしか知られていないとしても。また、地域というよりは時代の精神を感じさせる文化遺産というものも考えられます。音楽や演劇、スポーツ、伝統工芸などは代表的なものでしょう。身近な例では、ファッション、遊び、職業なども時代の文化遺産と呼べるかも知れません。こう考えると無形文化遺産の世界は限りなく広がっていきますが、同時にそれらを次の世代に伝えて行くことにはさまざまな困難もあります。

この授業では、無形文化遺産を中心に、ユネスコの世界無形文化遺産、日本国内の地域文化遺産、時代の文化遺産として生活習慣、古典芸能から現代のアニメや音楽なども扱い、その評価や継承・活用についても考えてみます。スライド画像・ビデオ映像または動画配信サービスを利用して理解しやすい授業を目指します。なお、前期の文化遺産Ⅰの内容とは重複しません。

2. 授業の到達目標

無形文化遺産の保護制度について基本的な知識を修得する(知識・理解)
多様な無形文化遺産に関心を持ち、その歴史的背景を洞察することができる(関心・理解)
無形文化遺産の保護・継承・活用について具体的提案ができる(関心・意欲)

3. 成績評価の方法および基準

毎回課題を出し、その成績の総合により評価します(100%)。なお、課題提出をもって出席と判定することがあります。

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書ではなく独自テキストを用います。

参考文献

参考文献は適宜指示します。

5. 準備学修の内容

授業で紹介する参考文献等を読み込んで次の授業で扱う無形文化遺産についての知識を得ておく。

テキストにあるキーワードを検索し理解を確かなものにしておく。

簡単な教場レポートを数回課するので当日までに前もって下調べをしておく。

6. その他履修上の注意事項

学部・学科により履修に制限があるので登録時に注意してください。

無形文化遺産は遠い存在と感ずるかも知れませんが、少しだけ知識を持てば生活の中で見聞きするあらゆるものが関係していることが分かって来ます。身近なところで体験できるかも知れませんが、キーワードが分かればネット上で世界の無形文化遺産を見ることもできます。ぜひ目を開いて広く当りを見回して下さい。毎日が楽しい学習になることと思います。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス、ユネスコ無形文化遺産ー有形文化遺産との違い、トピック1
- 【第2回】 ユネスコ無形文化遺産の問題点(5つの分野、登録、保護、観光、負の遺産)、トピック2
- 【第3回】 日本国内の登録推進運動1(「伝統建築工匠の技」、俳句、書道)、トピック3
- 【第4回】 日本国内の登録推進運動2(茶道、華道、盆栽、和服、日本酒、将棋)、トピック4
- 【第5回】 日本国内の登録推進運動3(温泉浴、海女、粘土瓦、モールス信号、鵜飼)、トピック5
- 【第6回】 日本の伝統工芸(北海道・東北・関東)、トピック6
- 【第7回】 日本の伝統工芸(中部・近畿)、トピック7
- 【第8回】 日本の伝統工芸(中国・四国・九州・沖縄)、トピック8
- 【第9回】 未来の無形文化遺産(スポーツ)
- 【第10回】 未来の無形文化遺産(音楽)
- 【第11回】 未来の無形文化遺産(アニメ)
- 【第12回】 未来の無形文化遺産(漫画)
- 【第13回】 未来の無形文化遺産(地域)
- 【第14回】 未来の無形文化遺産(小学校)
- 【第15回】 まとめ